

平成 22 年 10 月 8 日

トーハン

国民読書年を記念して「うちどく（家読）」全国市町村アンケート」を実施 ～北海道から九州まで 21 道府県 35 市町村が推進～

株式会社トーハン（本社・東京都新宿区、近藤敏貴社長）は、国民読書年を記念して家庭での読書「うちどく（家読）」の推進状況を調査する目的で、全国市町村アンケートを実施した（協力：出版産業振興財団〈JPIC〉）。437 市町村から回答があり、家庭での読書を推進しているのはこのうち約半数の 203 市町村。「うちどく」という名称を使用しているのは 21 道府県 35 市町村で、北海道から九州まで「うちどく」が全国的に広がっていることがわかりました。

「うちどく」は、長年学校での「朝の読書」を応援してきたトーハンが、学校で身についた子どもたちの意見を取り入れて読書の習慣を家庭にも広げようと、2006 年 12 月に推進をスタート。当時、家庭内の問題や家族間の事件が社会問題となり、その度に家族のコミュニケーション不足が一因として危惧されていました。また子どもたちの読書率が改善する一方、大人の読書離れが指摘されていたことから、「うちどく」は単なる読書推進にとどまらず、家族で本を読み、読んだ本で語り合うことをきっかけに、コミュニケーションを深めることをコンセプトとしてスタート。推進に当たり、読書の楽しみを知る子どもたちの意見を取り入れて「うちどくの約束」を設定し、活動の指針としています。これを具体的な取り組みとして最初に実践したのが茨城県大子町で、以後各地の自治体が「子ども読書活動推進計画」に取り入れるなど、独自の取り組みで全国的に広がりを見せてきました。

トーハンでは国民読書年を記念して、今夏全国の推進状況を調査。全国 1,780 の市町村にアンケート調査を行い、437 市町村から回答を得ました。

✚ 21 道府県 35 市町村で「うちどく」を推進

家庭での読書を推進しているのは 203 市町村で、回答を得た 437 市町村の 46.5%（グラフ①）。今後取り組む予定がある 62 市町村を加えると 60.6%にのびります。推進している自治体の中で、「うちどく」という名称を使用しているのは 21 道府県の 35 市町村（表①）。推進地域は北海道から九州まで全国的に広がっており、県別では、島根県の 4 市町村が最も多く、青森県・岩手県・茨城県の 3 市町村と続きます。また、24 市町村が「今後『うちどく』という名称を使用したい」と回答しており、さらなる広がりが見込まれます（グラフ②-1）。ロゴについては、9 市町村が使用（グラフ②-2）。トーハンでは、要望に応じてロゴマークの提供を行っており、市の広報や学校の図書だよりなどに使用されています。

なお、トーハンには学校関係者や PTA などから個別の相談も寄せられており、学校単位や市民レベルで独自の取り組みも見られることから、実際にはもっと多くの「うちどく」推進地域があるものと予想されます。



問 1. 家庭(家族)での読書を推進していますか。

①推進している	203
②推進していない	234
(②の内訳) ②-A 今後取り組む予定がある	62
②-B 今後取り組む予定がない	158
②-C 未回答	14

(n=437)

問 2.「うちどく(家読)」という名称、およびロゴマークを使用していますか。

名称		ロゴ	
①使用している	35	①使用している	9
②使用していない	143	②使用していない	154
③今後使用したい	24	③今後使用したい	30
④未回答	1	④未回答	10

(n=203)

✚ イベントの開催やおすすめ本リストで啓発

家庭での読書の主な推進内容は、「イベントの開催（講演会、親子読書会、等）」（116）、「おすすめ本リストや記録ノート等、ツールの配布」（98）、「公共図書館でのコーナー展開」（96）と続きます（複数回答）。また、30の市町村が「予算計上された推進活動」を挙げているものの、自由記入のコメントからは図書購入について十分な予算が確保できていない現状も窺えます（グラフ③）。

また、推進のためのツールとして、「オリジナルのおすすめ本リスト」（59）、「オリジナルの記録ノートやカード」（28）等が使われています（グラフ④）。

トーハンはうちどくホームページで、おすすめの本を掲載した「うちどくブックガイド」と家族で読んだ本の記録を残せる「うちどくノート」を提供しており、無料でダウンロードできます。

今回の回答で多くの自治体が、「うちどく」の趣旨を評価しており、推進の検討とともに業界的な取り組みに期待する声も多く寄せられています。読書は個人的な体験ですが、感想を話し合ったり、他者にすすめたりすることで、家族や友人との共有体験になります。トーハンは、本を媒介としたコミュニケーションで、ゆたかな社会づくりにつながる活動として、書店・出版社とともに引き続き「うちどく」の推進を図ってまいります。

◆ うちどくホームページ

「うちどくブックガイド」「うちどくノート」の他、「うちどく」に関する情報を提供。自治体の推進担当者向けの実践ガイドも掲載しています。

「トーハン うちどく」で検索。

■ 本件に関するお問い合わせ先 広報室 Tel : 03-3266-9587

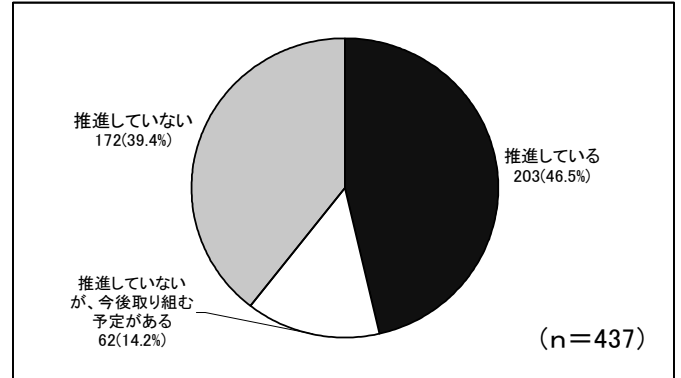
「うちどく(家読)」全国市町村アンケート

表① 「うちどく(家読)」を推進している市町村

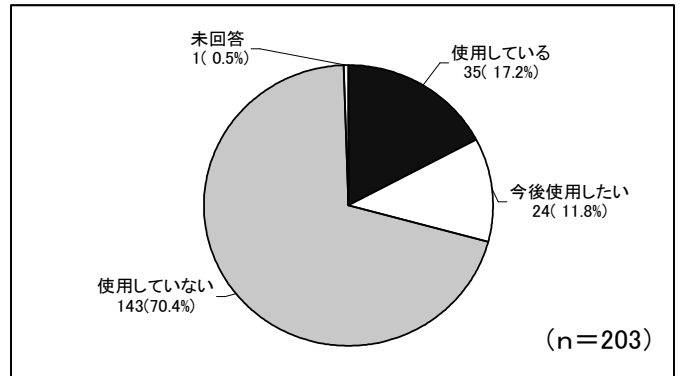
※今回のアンケートで「うちどく(家読)」と称して家庭での読書を推進していると回答した市町村

北海道	恵庭市
	湧別町
青森県	板柳町
	野辺地町
	階上町
岩手県	陸前高田市
	雫石町
	藤沢町
宮城県	女川町
茨城県	牛久市
	鉾田市
	大子町
栃木県	那珂川町
千葉県	八街市
新潟県	見附市
長野県	茅野市
岐阜県	可児市
	御嵩町
愛知県	豊橋市
	美浜町
三重県	鈴鹿市
大阪府	東大阪市
兵庫県	神戸市
鳥取県	境港市
島根県	浜田市
	東出雲町
	斐川町
	邑南町
高知県	須崎市
福岡県	小郡市
佐賀県	伊万里市
	基山町
長崎県	佐世保市
鹿児島県	曾於市
	南九州市

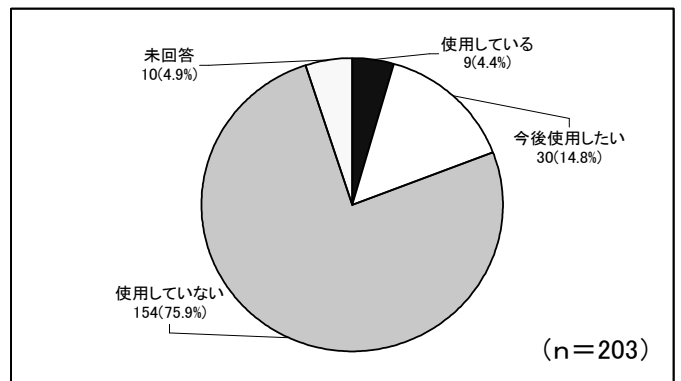
グラフ① 家庭(家族)での読書を推進していますか。



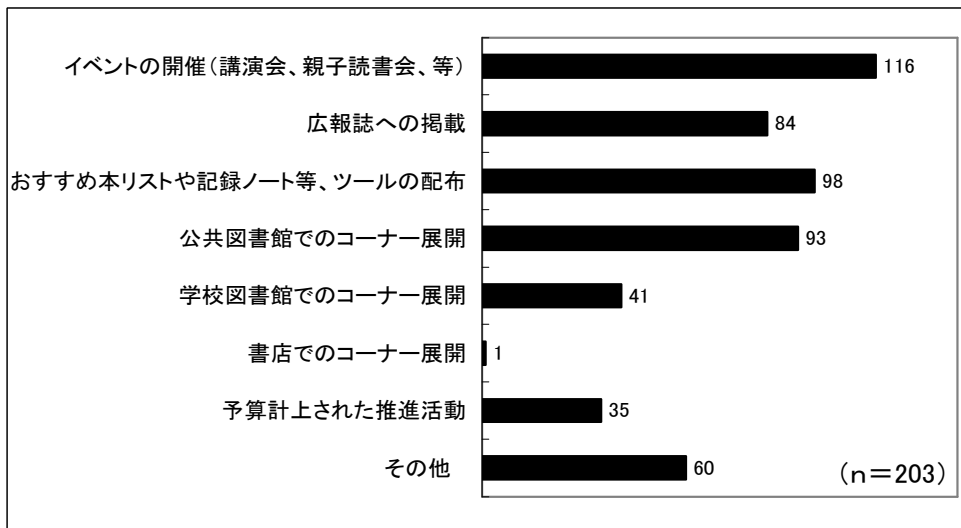
グラフ②-1 「うちどく(家読)」という名称を使用していますか。



グラフ②-2 「うちどく(家読)」のロゴマークを使用していますか。



グラフ③ 主な推進内容を教えてください。(複数回答可)



グラフ④ 推進のために利用しているツールはありますか。(複数回答可)

